

自動車専用道路に付属させた自転車道の可能性

1 内容

欧米では、都市部の道路に自転車道路が隣接して走っていることが多いと聞く。自転車は、二酸化炭素が出ず、エコであると同時に人間の健康増進に寄与する交通手段でもあります。

さて、日本ではどうだろうか。私自身、河川敷の遊歩道やサイクリングロードは見たことがあるが、都市部や地方でも自転車専用道路は、あまり目にするのは少ない。

私は、松浦市から伊万里市に車で通勤しています。その区間 28 km の内、約 10 km 西九州道路（完成区間のみ無料）を利用しています。私が思いついたアイデアは、この高架の道路の両サイドに幅 2m 程の自転車専用道路を付け加え、活用するという事です。都市部では、都市高速道路下を倉庫（資材置き場）等に活用しているのを見たことがありますが、高架道路の両サイドに片持ち梁形式の自転車道路があったら、面白いと考えました。ほぼフラットで信号がない道が続き、約 1 km おきに下に降りるスロープ等を設ける。一方通行とするため出発点に戻るには、あらためて、対抗路に登る必要があります。一般道路と違い高いので、眺めも良く快適で、余暇におけるスポーツのみならず、通勤・通学路としても利用できると思います。

2 調査、稼働

利用者・交通量調査等に基づき、ある区間について仮設の自転車道路（片持ち梁式）を作り、実証実験が必要だと思えます。費用対効果を考えた上で建設し稼働することになると思えます。

3 効果

電動アシスト自転車の普及もあり、体力に自信がない人にも応じた活用（距離等）が考えられると思えます。遠乗り（サイクルスポーツ）として考えても、最長 20 km 程度になると思えます。

通勤で、車を利用する人は 1 台に一人が乗っていることが多いと思えます。大変非効率です。健康的な道具（自転車）を活かすためにも、これは有益だと思えます。眺めの良い高架から、青空や山々・海を眺めこちよ汗をかく。エコや人々の健康増進に少しでも繋がればベストと思えます。今までに、あってもよかった施設だと思えます。

イメージ図(断面図)

